概　要　報　告

実施期日	８月４日(金)
部　会　名	中学校　保健体育部会

神奈川県研究主題

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

テーマ

『　学びを豊かにする生徒の育成　～わかる　使える　役に立つ～　』

提案概要

【単元】　健康な生活と疾病の予防　３　がんの予防　　**【学年】**　第２学年

【研究の概要】

研究テーマ「学びを豊かにする生徒の育成」を実現するために、目指す資質・能力の三つの柱からアプローチできるよう、サブテーマを「～わかる　使える　役に立つ～」と設定した。

１・（わかる）

ゴールへの見通しをもち、取り組む運動の合理的な実践の中で、知識がわかる。その知識を活用して技能ができる。授業の工夫・手立てとして、単元構造図を授業オリエンテーションで提示、GoogleClassroomの活用、授業の流れをルーティン化、単元テスト（Googleformを活用し、何度も回答できる）等を行い、知識の定着を図る。導入では、授業にひきつける、向かう気持ちをもたせる工夫をする。

２・（使える）

自己や仲間に対して、学んで得た知識からGOOD（成果）BAD（課題）NEXT（改善点）を考え、それを記述したり、他者に伝えたりする。授業の工夫・手立てとして、学習カード等の配付資料の工夫をする。何が、なぜできないのか、それをどのようにするかを具体的に考えることで、課題解決能力を身に付ける。ペア、グループ、チーム等の学習形態の工夫（知識構成型ジグゾー法、シンキングツールの活用等）をすることで、領域・単元で身に付けさせたいことを効果的に学ぶ。

３・（役に立つ）

学びで得た知識や技能、思考力・判断力・表現力を単元の中、教科の別単元の中、他の教科、行事、将来に活用できる。授業の工夫・手立てとして、ティーチング（教師が教え込む）からコーチング（生徒が考える、教師は導く）を目指す。生徒は、教師からの答えを待つのではなく、自分から問いに挑戦する心を身に付ける。単元構造図から、ゴールをイメージして先を見通す力を身に付ける。当時者意識をもたせる工夫として、生活に密着しているということを意識させる。

【研究の実践】

がんとはどのような病気なのか、がんを予防するために必要な生活習慣とは何かを知り、さらに二次予防の重要性も理解させ、自らの健康を適切に管理し、生涯を通じて健康で活力のある生活を送るための基盤の育成を図る。その中での指導観として、データ等も活用して、がんが身近な病気であることに気付かせ、がん発症予防や早期発見の重要性について仲間と意見交換を行い、その活動を通して自分事として捉え、自己の生活を振り返り具体的な予防策を立て実践するための意欲に繋げることもねらいとしている。

質疑応答

Q:ＡＩテキストマイニングについて知りたい。

A:プロジェクターに映し、実際にグーグルフォームで質問を作り、出された意見をコピーし、ＡＩテキストマイニングにコピーすることを会場で実践し伝えた。

協議の柱及び協議概要

① 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善になっていたか」（小・中学校）
- 子どもたちが楽しんで授業を受けているように見えた
- 授業の流れが決まっていることで子どもたちが安心して授業を受けられる
- 授業の内容を明確化することで理解が深まる

② 「ICTの利活用について」（中学校）
- 子どもたちが共有できる場を作り、その場はメリットになる
- テキストマイニングが視覚的にとてもわかりやすい
- 屋外の授業の時に持っていけない状況がある（インターネット環境）
- 動画の動きを見て何が良くてどんな課題があるかを発見できる

まとめ概要

【提案者より成果と課題・考察】

「～わかる　使える　役に立つ～」の役に立つに繋がる項目では、授業後アンケートで、とても思うと回答した生徒がかなり増えた。日々の生活の中でがんをはじめ、生活習慣病のリスクを減らすための行動が必要であることを学習したためだと考える。授業前アンケートの生徒のコメントには、「がんが見つかるのが恐ろしい」という意見があった。現在では、検診方法や医療の進歩などにより、症状があまり進行していない早期に発見された「早期がん」であれば、９割近くが治るという学習をしたため、多くの生徒の意識が変わったと考えられる。今後も、「学びを豊かにする生徒の育成～わかる　使える役に立つ～」のサブテーマのもと、主体的・対話的で深い学びの視点をもち、知る・多面的に捉えることで変わること（考え・行動）・始まること（行動）があるということを意識しながら授業改善に取り組んでいく。

【助言者より】

がん教育について令和３年度から学習指導要領において、がんについて取り扱うことが新たに明記された。がんについての正しい知識、健康と命の大切さについて、主体的に考え行動できる態度を育成することを目標としている。小学校６年生の「病気の予防」において発展的な学習として扱うことで、中学校２年生の学習が確かな知識として深まると考える。そのため、系統立てた指導が必要になってくる。がんに対する教育は、特別活動・道徳等を含め学校教育全体を通じて行う健康教育に位置付けて推進する必要がある。

また、主体的・対話的で深い学びの視点から、単元の見通しを生徒と教師が共有することは大切である。提案者の授業は、単元のイメージやゴールを生徒がつかめるようにしたり、動画などの情報をアップしたりと、生徒たちが主体的に学べるよう、ICTを有効活用した仕掛けがあった。ICTを使うことが目的ではなく、何を学ばせたいか、何を身に付けさせたいか、どの場面でどのくらい使うか、指導する側がしっかりと考えたうえでICTを活用していくことが大切である。